

【授業の視点】・操作活動を通して数学的思考の発達を促していく授業の在り方**授業者反省**

T1: ブロック操作で、1個ずつ順に分けていたのか、確認することができなかった。後で、子どものノートから判断した。

見通す段階で、子どもたちはブロック操作をして気付いたことを言葉で表現していくということが理解できていなかった。

考え方の発表が2人だけで終わってしまった。他の子どもにも発表させて、もっと盛り上げればよかった。

問題に対して、答えの確認が遅くなってしまった。また、ヒントカードの提示を忘れてしまった。

T2: M子、今日は寝不足で集中力に欠けていた。

ワークシートのますを全部埋めてからやっている子どもがいた。使い方が分かっていなかった。

ワークシートにますがあって、分かりやすかったのではないかと思う。

意見交換

冷静に授業を判断されていることが素晴らしい。落ち着いて授業を進められていた証拠だと思う。「スピードが速くなったね」など、M子に対する言葉かけがあり、個を大事にされている様子が伝わった。

ブロック操作で気付いたことをワークシートに書くことが、本日の授業の山場だった。もう少し時間をかけてもよかったのではないかと思う。

「わり算が簡単になった」「分かってきた」などの子どもたちのつぶやきが聞かれた。

つかむ段階で、子どもたちは答えを5個と予想していたのが不思議だった。どうしてそう思うのか聞いてみればよかった。

Nき、何かでつまずいて苦労していた。普段の学力からは、理解できる内容である。

K、苦手な九九により、3問間違っていた。

M子、前時の絵がヒントになった。

学習課題から立式していく過程で、課題から分かっていることは何なのか？が大事である。今日は、絵を先に提示した。絵を見たら理解できるけれど、文章を読んだだけでも意味が理解できるのか。文章を読んで理解することの指導も大事である。発達段階にあった学習課題の提示の仕方を工夫したい。

名前を呼ばれたら、返事をする指導を。(学習の躰)

机と椅子の関係があっていないのでは。体を斜めにして書く子どもの姿勢が気になった。

【 課題提示の仕方 】

絵カード（りんご・子ども）や黒板カーテンの活用により，子どもたちに本時の学習への意欲をもたせようと考えた。子どもたちの興味を引き，楽しく学習を始めることはできたが，発達段階（3年生）や読解力をつけるという面から考えると，文章で提示した方がよかった。文章から，分かることは何か？聞かれていることは何か？など，基本から丁寧に指導することも大事であった。

【 操作活動（ワークシート）】

枠（ます）をつけてブロック操作をさせるのは親切すぎるのではないかと考えたが，全体的な学力を考えて，つけることにした。また，表形式でブロックを並べ，何個ずつ配ったかを書き込ませることにより，かけ算の答えになっていることに気づきやすいただろうと考えた。

ブロックを並べたり，個数を書いたりすることはできたが，なかなか「気づいたこと」を書き込むことはできなかった。普段から自分の考えを表現させる訓練が必要である。また，その十分な時間を確保していきたい。

ますが目につき，ブロックを並べることに注意が向く子どもが見られた。ワークシートの形式の工夫や使い方の十分な説明，作業の見通しをもたせることが必要であった。

【 学力差への配慮（個に応じた指導）】

ヒントカード（前時の学習内容・九九カード）を用意した。また，T 2は，主に該当の子どもたちの指導に当たることにした。ワークシートにますを付けることにより，視覚的に理解する手助けとなった。

学習の始めに，3の段と4の段の九九を唱えさせて，意欲付けを図った。かけ算へ意識をもたせるとともに，既習事項の復習を行った。